

# 健康通信

## 婦人科領域における腹腔鏡下手術



産婦人科 部長医師

藤原 多子

### 安全な腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術で手術可能な婦人科疾患は近年の医療機器・医療技術の進歩により大幅に適応が拡大しています。

当科においても子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣腫瘍などの良性腫瘍全般に対し腹腔鏡下手術を施行していますが、手術件数は年々増加しています。入院期間が短く、痛みなどの侵襲が少なく、傷も小さいため、患者さんより高評価をいただいています。

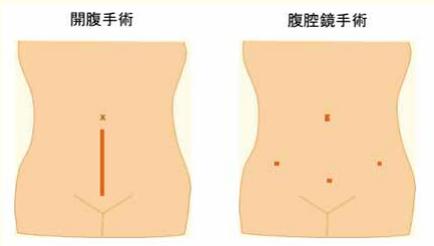
腹腔内に二酸化炭素ガスを注入し(気腹法)十分な視野を確保して、臍部と下腹部数か所の5〜15mmの小さな創部から手術操作をする鉗子とカメラを挿入して手術を行います。当院では日本産科

婦人科内視鏡学会技術認定医が

在籍しており、腹腔鏡下手術を安全に行うように心がけています。

子宮体がんにおいては従来の手術は下腹部を大きく切開する開腹手術です

が、同等の治療成績が得られるのであれば身体への負担の少ない手術が理想的です。早期子宮体がんに対する腹腔鏡下手術は保険適用となっており、当院では



日本婦人科腫瘍学会腫瘍指導医が手術を行うことで手術の質を担保しています。

2020年9月に施設認定を取得し本格的に導入しています。この手術は子宮筋腫のような良性の手術と異なり子宮を体内で小さく破砕する事ができませんので、原則として子宮を切開せずに腹腔外へ取り出せる事が条件となります。がん手術の成績として現時点では開腹手術と同等です。なお、適応症例は進行期や腫瘍径など総合的に判断し決定します。

### ロボット支援下手術の導入

さらに今秋よりロボット支援下手術を導入します。2020年2月に良性の子宮筋腫や子宮腺筋症および早期子宮体がんに対して保険適応となりました。

ロボット支援下手術は、鉗子に手ぶれ補正機能が付いており、多関節機能のため自由度の高い操作が可能です。さらに3D画像で立体視ができます。腹腔鏡下手術と比較すると、より開腹手術に近い操作が可能であり、より繊細で正確な手術を行うことができます。

当科ではIntuitive Surgical社規定のトレーニング

グを受けたロボット支援下手術のコンソールサーजन(術者の資格を有する内視鏡技術認定医かつ婦人科腫瘍専門医の医師が主となり手術を行います。

### お気軽にご相談ください

このように婦人科疾患において鏡視下手術の適応は拡大してきていますので、手術が必要な方や術式についてご希望がある方は外来にて担当医にご相談下さい。症例に応じて手術術式を決定します。

皆さんのご要望にお応えできるよう、婦人科腫瘍指定修練施設として婦人科癌に対する予防、診断、治療を適切に提供します。当院はがん拠点病院でもあり、今後も地域の医療向上に努力していきたいと思っております。

